

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(生)甲 第259号	氏名	王 正
学位審査委員	主査 副査 副査	中村 修 吉田 謙太郎 戸田 清	
<p>王正氏は、2008年4月に本学大学院生産科学研究科博士後期課程に入学し、現在に至っている。同氏は、生産科学研究科に入学以降、環境科学を専攻して所定の単位を修得するとともに、環境教育に関する研究に従事し、その成果を2011年7月に主論文「中国の小学校における廃棄物教育の評価」として完成させ、参考論文として、学位論文の印刷公表論文9編(うち審査付き論文3編)を付して、博士(環境科学)の学位の申請をした。</p> <p>長崎大学大学院生産科学研究科教授会は、2011年7月20日の定例教授会において論文内容等を検討し、本論文を受理して差し支えないものと認め、上記の審査委員を選定した。委員は主査を中心に論文内容について慎重に審議し、公開論文発表会を実施するとともに、最終試験を行い、論文審査および最終試験の結果を2011年9月7日の生産科学研究科教授会に報告した。</p> <p>本論文では、廃棄物教育がほとんど実施されていない中国の現状に注目し、その現状を詳細に分析・評価し、廃棄物教育の必要性を提示したものである。</p> <p>まず、中国政府の公式見解では中国では環境教育が普及・定着していることを整理した。そのうえで、中国瀋陽市の現状を詳細に調査・分析することで、環境教育、とりわけ廃棄物教育が欠如している状況を明らかにした。さらに、日本の取り組みと比較し、中国での廃棄物教育のありかたについて提案した。</p> <p>本研究は、社会的重要性が高いにもかかわらず、あまり取り組み例のない廃棄物教育、とりわけ中国の廃棄物教育に着目し、その現状を様々な視点で調査、分析、評価した点が高く評価される。また、日本の先進事例を整理した上で、中国の地方政府における廃棄物政策の啓発事業として具体的に提案するなど、社会的に意義ある研究である。</p> <p>以上のように本論文は、環境教育および廃棄物政策に関して多大の寄与をするものと評価できる。</p> <p>学位審査委員会は、環境教育研究の分野において極めて有益な成果を得るとともに、環境科学の進歩発展に貢献するところが大きく、博士(環境科学)の学位に値するものとして合格と判定した。</p>			